



■大山(ブナの森から孤高の頂へ)

- 山 行 日 : 10月14日(金)~15日(土)
- 参 加 者 : L垣内 SL砂川(延) 上田 澤田(律) 開 待場 山本(正一) 和田
- 行 動 記 録 : 下山キャンプ場 6:10 発~五合目(7:25 着) 7:35 発~六合目避難(15日) 小屋(7:55 着) 8:00 発~弥山山頂(9:05 着) 9:15 発~行者谷別れ(9:40 着) 9:50 発~大神山神社(11:40 着) 11:50 発~下山キャンプ場(12:05 着)

◆◆絶好の好天に恵まれた大山山行

和田

今日14日も明日15日も予報では晴れである。砂川会長運転のレンタカーで加西市役所を13時に出発した。車は定員10人の新しい車である。快調に中国道、米子自動車道と走っている。私はうつらうつらしていたが、ちょっと覚めて窓外をみると午後の陽ざしをいっぱいを受けた大山がドーンと目に入った。雲ひとつない青空の中に頭がぎざぎざの大山がくっきりと見えた。これまで3回大山にきたが、これまでの一番のくっきりしたきれいな大山である。またしばらく走ると富士山そっくりの伯耆富士となって現れた。ほんまに雄大である。

自動車道を離れて食材の買い物をした。初めに入った土産物屋では、肉類が半額になっていて、女性陣は安い安いと言っていた。今日(金曜日)は平日のため、客が少ないので安くしているのだろうと皆さんの見解。もう一軒スーパーに寄り野菜を購入した。

キャンプ場には4時頃到着。テントを張る場所は地面から約50センチ高さでの木の板を貼った3m四方の床の上である。直ぐ横にはテーブルもある。夏場はこの上にがっちりしたテントを張って賃貸しているとのこと。早速テントを張り、夕食の準備を始めた。するとカラスが2羽テーブルに舞い降りた。「こらーっ」と言ったら肉のパックを一つくわえて飛びたつた。

追いかけて石を投げたらそれをほうりだした。

山本さんがそれを回収してみたら残っていたのは1/3だった。ほんの一瞬のことだった。

4時半頃テーブルに着いた。ビール、ワイン、



焼酎に半額肉たっぷりの鍋があり、楽しい晩餐が始まった。次々と話題が尽きない。暮れて時間が経つと寒くなって、いつの間にか皆さん上に何かをはおっている。

9時頃テントに入った。少し離れた場所に1つだけテントの明かりがぼんやり見えている。

翌朝は5時に起き朝食後6時に出発した。テント場の駐車場には、夜やってきた車がいっぱい駐車している。御来光を觀にきた人達だろうと上田さんの解説。先頭はSL会長砂川さん、しんがりはL垣内さんで1000mの登りスタート。夏山登山口から上りはじめた。初めは石の階段、それが終ると丸木で作った階段となってゆく。何時もの事だが階段はきつい。空は雲ひとつない。風も無い。気温は低い。林の中を登ってゆくと段々と勾配がきつくなってくる。

7時過ぎ頃に下りて来る人に出合った。御来光をみて下りて来た人だろう。5合目辺りまではブナの林の中を登ってゆく。ずっと登りで勾配も段々きつくなってくる。私と私の前との間が少しずつ開いてくる。他のパーティーが次々と追い越してゆく。「我がパーティーが追い越す事は無いのう」と上田さんがのたまう。高くなるにつれ、〇合目という数字が増える。

5合目で休憩。東側に崩落の様相の元谷が見える。6合目まで登ると小さい避難所があった。昨年雪のあるとき登ったがこの避難所はすっぽり雪をかぶり扉の所だけ除雪してあった。今度全体をみるとやっぱり小さい。しんどいのになんて耐え、木道のある頂上付近まで登った。きゃら木群生地を越えてやっと1、705mの頂上に9時に到達した。思ったより大勢(50人前後?)の人が登っていた。見晴らしはすばらしい。福島から来たという人もいた。

少しやすみ、記念写真を撮って下山をはじめた。下りは少し楽だろうと思いつつ歩いたが、長い下りで膝が痛くなった。登ってくる人が随分と多くなってきた。行者コースを下る時はブナ林の緑のなかを陽の光が漏れて何ともすがすがしい景色だった。疲れたが12時にはキャンプ場に戻った。うどん汁で昼食を摂り帰路についた。やっぱり山はきつい楽しい。



■高御位山縦走(高御位山の周りを一周します)

- 山 行 日 : 10月16日(日)
- 参 加 者 : La 藤本 SLa 赤木 乙坂 木下 黒本 小山 高島 田中(美) 田中(由) 土屋 平石 宮崎 矢根 山本(清)
Lb 澤田(律) SLb 苦瓜 香川 木村 田中(重) 谷口 土井 西脇 森下 山下(雅)
- 行 動 記 録 : 市ノ池公園 9:10 発~経政神社(9:35 着) 9:40 発~長尾天満宮(10:00 着)~小高御位山(10:50 着) 11:00 発~成井登山口(11:15 着) 11:25 発~山中尾根分岐(12:20 着)~松の木谷池(13:40 着) 13:50 発~高御位山縦走路分岐(14:50 着)~桶居山分岐(15:00 着)~馬の背分岐(15:10 着) 15:15 発~市ノ池公園(15:40 着)

◆◆高御位山周回の記録

木下

かなりハードな、そして高御位山の奥深さを実感した山歩きだった。大きく6回の登り下りがあり合計すれば約600mの高低差となる。次にこのコースを歩く機会があれば、しっかりとした心構えをして臨むことが肝心だ。

ストレッチが終わると市ノ池公園から経政神社に向けて出発。道端にはリンドウが咲いている。1つ目の鉄塔を通過して下り、少し登ったところに小さな祠がありここが経政神社で1回目の小休止。2つ目の鉄塔を越えて急な下りがある鞍部から少し登ると長尾天満宮があり、さらに樹林帯を登ると小高御位山がよく見える3つ目の鉄塔のところに着し2回目の小休止をとる。見上げた高御位山頂付近は、そそり立つ岩場の迫力を見せてくれる。ここから小高御位山までは急な下りと登りがあり、頂上付近から見下ろすと成井登山口にある高御位神社の屋根が樹木の間から見える。この急な登山道を80才は越えていようかと思われるお年寄りが、枯木の杖を2本両手に持ち息子と思しき人と一緒に登ってきて元気に我々に挨拶をしてくれた。

小高御位山から成井登山口まで150mほどを一気に下る。ここでトイレ休憩。残念ながら2名の方がリタイヤ。成井登山口からは北側の樹林帯の谷筋を登る。日曜日の好天で多くの登山者がいるにもかかわらず、ここから松の木谷池を通過して高御位山縦走路にでる



まで誰にも出会わなかったことから、いかにマイナーな登山道であるかがわかる。先頭を歩いた藤本さん、クモの巣取りご苦労さまでした。

山中尾根分岐までひたすらに登ると、手前あたりから高御位山頂上にある神社の屋根が見えてくる。しばらく歩き見晴らしのいい岩場で休憩し昼食をとる。次の目的地、松の木谷池がよく見

える。あそこまで行ってまた登り返すのかと思うと、見晴らしのいい景色とは裏腹に疲れが増してくる思いがする。池沿いの道に入ると笹が覆いかぶさり、茨の木をよけながらの歩行となる。吾亦紅の花が池の堰堤付近に咲いていた。

今回のコースの最後の大きな登りとなる高御位山尾根分岐に向けての道歩く。正面に高御位山縦走路を見ながら小さなアップダウンを繰り返す、はやく縦走路に出ないかなと思いつつ登る。縦走路にでると足どりも幾分軽くなり、今まで歩いてきた道と比べると馬の背分岐への急な登りも苦にならない感じがする。桶居山の分岐を過ぎ馬の背分岐に到着、最後の休憩をとる。いつか桶居山にも足をのばしてみたい。ここからは急な下りを注意しながら降り、鉄塔手前の岩場から市ノ池公園へ向かう。雨が少し降ってきたが無事出発地に到着。花壇の下、赤木さんの指導でストレッチをし、長くハードな高御位山周回山行を終了した。お疲れ様でした。

参加者のひと言

【乙坂】

高御位山に森の様な場所があったのか??と新しい発見で、楽しかったです。小高御位山頂までの登りがキツく心が折れそうでした。(>_<)

小さな切り株がところ所にあり、何度かつまづきそうになりながらもサバイバル感を楽しめた感じです。あの蜘蛛の巣だらけの木にビックリ？

【土屋】

8キロの山登りは無理ムリと膝が笑っていました。次の申し込みには5キロ位で慎重に考えてから申し込みます。

【高島】

くもの巣を取り払いながら、進む道を案内していただき、長い距離を歩くことができました。途中、やまの上でヤッホーと叫びたかったです。(笑)

【宮崎】

私、ひさびさの山歩きで 帰宅後お風呂で念入りのマッサージしたのですが筋肉痛です

【澤田(律)】

高御位山も日頃、ほんの一部しか歩いていないことが良く分かりました。

さすが、里山、登山道は多いですね。

【田中(重)】

私に取っては又歩きたいコースになりました。

【谷口】

高御位山の違った顔を見せてもらいました。どこか遠くの山に行った気分でした。

しかし、しんどかった。(笑)

【山下(雅)】

いつも歩くコースと違ったコースなのでよかった。

【苦瓜】

高御位山を甘くみていました。

【矢根】

高御位山は、奥が深くて楽しい山です。色々なコースを歩いてみたいと思いました。

今回は、しんどかったです。最後の下りで足が痛くなり、翌日には、筋肉痛になりました。

【平石】

クリアー出来るかなあと心配しながらの山行でしたが、リタイヤする所もなくゴール出来て良かったです。シダや藪漕ぎイバラ道、山あり谷あり池あり、とても変化に富んだ行程で、辛い中にも楽しく歩けました。

【赤木】

高御位山のいろんなところを案内していただき面白かったです。少ししんどかったですけど。

【藤本】

いつも歩く道とは違う角度から山を眺め、驚きとともに高御位山の新たな魅力を発見し、いっそうこの山が好きになりました。



■大峰奥駈道を歩くシリーズ4回目

(行仙宿小屋～笠捨山～玉置山～熊野本宮大社)

- 山 行 日：11月1日(火)～4(金)
- 参 加 者：L上田 SL待場 大谷 河合 瀧原 三木(悦) 村上

● 行動記録：

- (1日) 白谷トンネル東口 15:15～奥駈道出合 16:20～行仙宿山小屋(16:45 着)
- (2日) 行仙宿山小屋(5:30 発)～笠捨山(7:30 着)7:45 発～葛川口 8:20～地蔵岳(10:10 着)10:15 発～香精山 13:05～塔ノ谷峠(13:50 着)13:55 発～古屋宿跡 14:45～森林植物公園 15:15～十津川温泉やまとや(17:00 着)
- (3日) やまとや(5:25 発)～玉置山展望台(5:55 着)6:25 発～玉置山 7:00～玉置神社(7:20 着)7:40 発～玉置辻 8:30～大平多山分岐 9:30～大森山(10:00 着)10:20 発～五大尊岳 11:40～六道ノ辻 13:25～大黒天神岳 13:45～山在峠(14:50 着)15:00 発～吹越峠 16:00～七越峰 16:50～備崎橋 17:30～湯峰温泉あづまや荘(18:30 着)
- (4日) あづまや荘 8:00 発～熊野本宮大社・那智大社・青岸渡寺・那智の滝など観光

◆◆大峰奥駈道の最難所を歩く

河合

昨年5月に吉野から始めた大峰奥駈道歩きは、4回目を迎えいよいよ結願である。

【1日】

JRのトラブルで予定の特急乗換ができず、1時間半の遅れが発生する。タクシーで白谷トンネル東口まで行き、急登を進み、行仙宿山小屋に5時前につく。水の確保が急がれ、水場へのピストンを終えると闇夜である。小屋では新宮山彦のボランティアの方がストーブを焚き暖かくして迎えて下さる。ビールのサービスがあり、早速、柿の葉ずしとお味噌汁の夕食にする。

小屋は管理状態が良く、持参のシュラフを使わずに毛布を7～8枚借り、気持ち良く寝入った。しかしストーブがたち消えてからは寒く、慌てて重ね着をする。

【2日】

星空のもと5時半出発。高度を上げること2時間で笠捨山に着く。稜線を進み葛川辻を抜け地蔵岳へ向かう。最難所の前触れに緊張するが好天気が味方だ。ザックの重さ、短足を嘆きながら、木の根を頼りに急登を這い上がり地蔵岳に着く。ところがほんとの難所はこの後で人間用とザック用の鎖が取り付けられた6mの断崖の下りだった。リーダーが空身で下り、ザックを降ろすため細引き2本と鎖の使い方を説明される。先頭で作業をする人をシュリング2本で繋ぎ、カラビナを鎖に固定する。全員の重いザックを降し、無事に絶壁を下りほっとする。

アップダウンを繰り返して香精山を上り、古屋宿跡から水場の森林公園の車道に3時過ぎに出る。昨夜の寒さを懸念しここでのツェルト泊をやめ、タクシーで30分の十津川温泉の民宿泊まりにする。

◆◆最後まで厳しい大峰奥駈道、玉置山から本宮へ

上田

【3日】

今日は玉置山展望台からの出発、快晴だが風が強く冷たい。最初の峰は今日の最高点の玉置山、それを下って堂々たる社殿の玉置神社に参拝する。コース上の名の入った峰は大森山・五大尊岳・大黒天神岳・七越峰などで徐々に高度を下げていくのだが、数えきれないほどのアップダウンをくりかえし、そのたびに急傾斜の下りがあり体力を消耗する。展望のない杉や桧の林の中を延々と進む。気持ちを和ませてくれるのは登山道に点々と咲く薄青色のリンドウ(名前は定かでない)くらいだ。今日のコースタイムは8時間30分、私



達の足では10時間をこえるのは間違いない。中間と思える五大尊岳に11時40分、5時間半を要しているが、心強いのは天気がよいことだ。

山在峠付近で展望が開け大きく蛇行する熊野川が見えた、もう少しだと思ったのだが、私たちが熊野川にかかる備崎橋を渡るころにはとっぷりと日が暮れていた。

宿から迎えに来てもらい風呂に入り乾杯、達成感と安堵の笑顔が印象的だった。

【4日】

昨日行けなかったので、まず熊野本宮大社に参拝、奥駈道から見えた旧社地の日本一の大鳥居も見に行く。次は那智大社と青岸渡寺に参拝し那智大滝へ、勝浦駅でボリュームのある生まぐろ丼定食に満足

して帰路につく。

吉野から熊野まで大峰奥駈道を歩く計画を立て、昨年からの4回の山行で計10泊14日、延べ26人が参加したが1人の事故もなく1日も雨にあわなかったのは、私たちに山の神の加護があったのかもしれない。



■木曾駒ヶ岳テント泊(アルプ山行)

- 山行日：10月22日(土)～23日(日)
- 参加者：L竹内 SL須増 大谷 尾越 三木(悦) 和田 渡辺(和)
- 行動記録：

(22日) 菅の平BS(10:10着)10:40発ーしらび平(11:10着)11:18発ー千畳敷(11:25着)12:00発ー乗鞍浄土(12:55着)13:00発ー宝剣山荘(13:05着)13:30発ー頂上山荘(テント場)(14:00着)14:55発ー木曾駒ヶ岳(15:15着)15:25発ー頂上山荘(テント場・15:40着)

(23日) 頂上山荘(テント場)6:10発ー中岳(6:25着)6:35発ー宝剣山荘(6:50着)7:15発ー宝剣山(7:35着)7:45発ー三ノ沢分岐(8:35着)8:45発ー三ノ沢岳(10:25着)10:50発ー三ノ沢分岐(12:30着)12:50発ー極楽平(13:00着)ー千畳敷(13:25着)13:48発ーしらび平(13:55着)14:00発ー菅の平BS(14:30着)14:55発

◆◆行ってみたいと思っていた中央アルプス

和田

早朝4時過ぎ、竹内さんの車が家の前に到着した。この車はこの後大谷さん、三木さんを順に拾い、渡辺さんの車は須増さん、尾越さんを拾い2台の車は加古川北ICで合流した。

そして名神～中央と自動車道を走り、駒ヶ根ICを降り、菅の台バスセンターの駐車場に着いた。ここから駒ヶ岳ロープウェー迄専用バスで50分走った。駒ヶ岳ロープウェーは950mの標高差を8分弱で一気に登り2610mの千畳敷駅に到着する。日本一高い場所にあるロープウェーとのこと。天気は良く千畳敷カールも尾根筋も一望できる。カールはそんなに広くはない様に見えるが、カールから急勾配で尾根にジグザグにのびている

登山道の人影は米粒にみえる。よくよく見ると尾根にも小さい粒が見え、それが動いている。

いよいよ歩きである。先ずは千畳敷駅の裏から2860mの尾根筋迄登攀するのである。

私は健脚ではない為リーダーの後ろについた。なんとか尾根を越え、宝剣山荘に到着した。

「木曾駒ヶ岳頂上山荘がもう閉まっているためここでテント場の申し込みをした」と、竹内さんの話。小休止の後さらに歩くと木曾駒ヶ岳頂上山荘が見えてきた。

テント場ですぐテントを2張り張った。それからすぐそこに見える木曾駒ヶ岳頂上に向かった。私はもう体力の限界近く、皆について行けない。度々休憩をしながら頂上に到達した。私は疲れていた為、景色も雰囲気もあまり記憶に残らなかった。下りるのもやっとならなくて下りて、女性側のテントで夕食の準備、夕食となった。準備の主メンバーは女性軍である。ビール、酒、ワインがあり、下ごしらえした具材で料理ができる。

楽しい時を過ごした。でも7人が1つのテントに集まっては少し狭い。夕食が終わったら男性は男性用テントに移り、直ぐ横になった。私の横からは直ぐ寝息が聞こえてきた。女性用テントでは、後しばらく声が聞こえていた。後かたづけか。少し風が出てテントがパタパタ音をたてている。時々目が覚めたがそれなりに眠れた。



2日目(23日)は4時起き、5時から食事、テント撤収、6時出発。宝剣山荘に戻り、トイレを済ませた。

目の前に岩が鋭く天に向かって突き出た峰が見えてきた。宝剣岳である。大谷さんはかつて木曾駒ヶ岳に来た事があったが、宝剣岳は危険が伴うので登らなかったそうである。今回は全員ヘルメットも準備してきた。リーダーは岩や鎖を掴んで進みその後を私が続いた。下は何もない。落ちたら命は無いと判る。スリル満点である。パーティー全員が無事通過した。宝剣岳を過ぎると三の沢分岐から三の沢岳に向かう。分岐でザックをデポしサブザックで出発した。

そこから見ると三の沢岳は少し降りてまた緩やかに登ったら行けそうに見えた。

私はこの時点でバテ気味で息がきれて苦しかった。歩いてみると直ぐそこと思えたコルも降りてみると長くしんどい。先に登りが見えるがこれは私にはもう無理と思えた。リーダーに「私はこの先は行かない。ここから分岐へ戻って待っている」と、申し入れた。

元気のメンバーはゆっくり歩けば行けると励ましてくれたが私には行ける気はしなかった。私は少し歩いては休みして分岐へ戻った。幸い天気は良く風も無い。しばらくするとやたらと眠くなってきた。横になる場所はないかと思ったが、こんな所で人が横になっていたら通りがかりの人に何事かと訝られそうでもある。とにかくそこで3~4時間待っていたら我がパーティーが戻ってきた。三の沢岳頂上は360度の眺望だったとのこと。

ロープウェイ駅に戻り、帰路に就いた。パーティーの皆さんありがとうございました。



しかくほしがせん

■星山(女性委員会)

眺望と稜線歩きを楽しむ

- 山 行 日：10月29日(土)
- 参 加 者：L澤田(律) SL 待場 乙坂 田中(美) 田中(由) 苦瓜 橋本(万) 村上 矢根

- 行 動 記 録：ビジターセンター東登山口(9:20 着)9:45 発～星山・前山分岐(10:20 着)10:30 発～星山山頂(11:00 着)11:20 発～扇山手前で折り返し 11:50～星山山頂(12:25 着)12:30 発～鞍部(12:50 着)～東登山口 13:30 着

ほしがせん

◆◆星山 遠くの山々が雲の切れ間から

乙坂

スタート地点のビジターセンターに到着した時、空はどんよりとした雲に覆われ、小さな雨が降っていました。カッパを着るのは久しぶりだなあと思いながら、せっせと雨対策の準備を進めました。

ビジターセンターの裏はすぐに登山口で、そこから山頂までは緩やかだけどひたすら登り道でした。山道は木々が豊かに生えており、無駄な雑草は刈り込まれ幅が広くとても歩きやすく整備されているなあと思いました。足元が余り良くなかったので、下ばかり見ながら歩いていましたが、落ち葉がきれいに敷き詰められたふかふかの場所があり、紅葉を感じる事が出来ました。見晴らしが利く場所では、遠くの山々が雲の切れ間から見え「晴れていたら素晴らしい景色が見えただろうなあ」と…。

1時間30分程歩いてようやく山頂に到着。「えっ！そんなに歩いていたの？」と思うくらいアツと言う間に到着したように思いました。下ばかり見ていましたが、広葉樹や杉の木、竹と植物の種類が多く、飽きなかったからかなあと思います。

山頂は笹が茂っていましたが、辺りが見渡せる高さにキープされ、晴れていたら360度見渡せる状態でした。そこから扇山方面へ移動、40分程歩きました

が、雲は厚く見晴らしも良くなかった事と温泉タイムを充実させようとここで引き返す事になり、残念でしたが、私だけでなく、全員の気持ちは「温泉へGO！」だったと思います。

真賀温泉、とてもいいお湯でした。入浴料金¥150(安い!!)源泉かけ流しの湯。人肌より2～3℃高い温めのお湯で、ゆっくりとお湯を楽しむ温泉でした。

今回、私にとっては初の“ジャンボタクシー利用”でした、荷物の置き場もあり、なかなか快適でした。

星山は景色を楽しめなかったのが、機会があれば初夏の晴れた日に泊りがけで、訪れてみたいなあと思いました。星空もきっときれいだろうから。

澤田様、待場様、お世話になりました、ありがとうございます。

皆様、ありがとうございました。





■熊野古道 伊勢路 (馬越峠道&八鬼山越え)

- 山 行 日 : 10月29日(土)~30(日)
- 参 加 者 : L 垣内 SL 藤本 島谷 清水 関山 田中(重) 橋本(健) 平石 藤田 森下 山本(清) 山本(正樹) 吉村

● 行動記録 :

(29日) 鶯毛登山口(12:50着)13:10発~馬越峠(14:05着)14:10発~天狗倉山(14:40着)15:00発~馬越公園(16:05着)16:10発~宿(胡蝶館)(16:40着)

(30日) JR三木里駅(7:52着)8:00発~三木里海岸(8:20着)8:30発~登山口(9:00着)9:05発~江戸道、明治道分岐点(9:15着)9:20発~十五郎茶屋跡(9:50着)10:00発~さくらの森広場(11:00着)11:15発~九木峠(昼食)(11:50着)12:15発~熊野古道センター(14:30着)15:40発~JR大曾根浦駅(15:50着)

◆◆熊野古道「昔の人は偉かった」

関山

【10月29日 — 熊野古道】

いにしへの響き。私のような無知の者が書ける感想文ではない。Kリーダーの指示でなければ早々に辞退しているが…。と、思いながら山行に出発した。

5時間程度の列車移動。久しぶりの伊勢路である。自分が今何処にいるのかが分からないまま、海の匂いが少しして来た。熊野灘だ。尾鷲駅に着くなりタクシーが待っている。段取りが良い。熊野古道。馬越峠への散策の始まりだ。

列車で硬くなった筋肉をTさんのストレッチで解して歩き出す。馬越峠道へは緩やかな

石畳が続いたが、天狗倉山登り口の急階段は昔天狗が住んでいたと言われるだけはある。

途中には疲れを癒すように軸の短いアサマリンドウの優しい花が迎えてくれた。登りきったその岩の大きい事。Fさんと概算測量をした。

$10\text{m} \times 10\text{m} \times 10\text{m} = 1000\text{m}^3 \times 3 \times 2.7(\text{比重}) = 2700\text{トン}$ だ。

そしてさらにドッキリ、ビックリしたのはその急坂を乳児を背負って登ってくる父親。

母親は入園前の子供2人を連れて登ってくる。高御位山遊会の女性陣からどよめきの喚声が上がった。Besar(インドネシア語:すばらしい)尾鷲港が一望出来た。満足だ。

山行と言うのにホテル泊まり。夕食は「豆狸」でプレミアムビール、ワイン(無料)、天ぷら定食、刺身定食を和やかに食べおかみさんの話も面白くいい会食となった。帰り道、明日の昼食を買いに皆でコンビニに寄った。

【10月30日】

今日も良い天気だ。八鬼山越えの古道は難易度5の内の4だ。

三木里駅まで列車で移動した。駅前でストレッチ…と言っても人影はない。経路を確認しにKリーダーと交番に寄るが、ピンポンを鳴らしてもなかなか反応がない。しばらくして目をこすりながら30代ぐらいのハンサムポリスが出てきた。

三木里浜でトイレ休憩をしていると地元の長老2人が寄ってきた。「何処からですか？」



「ええ・・・神戸から・・・あの峠は私らもきつくて途中までしか登らんのに・・・。」そう言えば昨夜の食事何処の女将もそんなことを言っていました。数回の休みを挟みながら江戸道から十五郎茶屋跡を通り、さくらの森広場に着いたのは昼前だった。熊野灘が一望できた。

太平洋のやさしい風が身を包み、眼下に広がる熊野灘の白波がまるでウサギが飛んでいるように見えた。七曲りを下り熊野古道センターに着いたのは14時30分位だった。

丁寧に多岐に渡り説明を受け、熊野古道の知識を学び、温故知新。『昔の人は偉かった』JR大曾根浦駅で待ち時間があつたのでリーダーの発案で反省会を開いた。メンバーからは異口同音に問題定義はなく今後は熊野古道をシリーズ化し来年から定着したら如何と言う意見が珍しくSさんから提案された。

【追記】：尾鷲市は海拔2~5mに位置し南海トラフ地震に備えて避難訓練が頻繁に行われているそうです。街中で頻繁に見かける標語

「津波は逃げるが勝ち」



■六甲山 紅葉のスポット森林公園へ

- 山 行 日：11月3日(木)
- 参 加 者：La 森本 SLa 野村 乙坂 高島 田中(重) 田中(由) 土井 増田
Lb 藤本 SLb 砂川(延) 島谷 土屋 前川(克) 前川(典) 山本(清)

- 行 動 記 録：JR元町駅8:00 発～諏訪神社(8:20 着)8:35 発～大竜寺 9:35 発～再度公園 9:55(着)10:10 発～森林植物園西門(11:00 着)～森林植物園東門 13:00 発～市ヶ原(14:15 着)14:30 発～布引の滝(15:00 着)15:10 発～新神戸駅(15:30 着)

◆◆初めての森林植物園山行に参加して

土井

11月3日、とても良いお天気だった。でも外は寒いのかな？どれぐらい着ていけばいいだろうと迷いながらグダグダ着替えていてあやうく電車に乗り遅れそうになった。今回の集合場所はJR元町駅だった。「元町からも六甲山に行けるんだなあ」と、思った。

元町駅から北へ県庁を通り過ぎて諏訪神社へ向かった。神社の手前にすごく急な坂と階段があつてちょっと息があがつた。まだ山に入ってもないのに。。

諏訪神社から途中修法ヶ原池で休憩をして森林植物園へと向かった。今回のコースはそんなにきつい所はなかったが階段が多くてそれが足にこたえた。途中いろいろ道が分かれていて確認しながらの山行で、「これは、一人だと絶対迷うな」と思った。

森林植物園でお昼休憩をしてその後各々園内を散策することになった。ところどころ紅葉している木もあったが、全体的にはまだまだの感じだった。園内にはカモシカが飼われていてずんぐりしたその姿は意外とかわいかった。次の集合時間まで2時間あつたのでたっぷりあると思っていたが、気がつけばあと10分しかなくて焦った。

そこから早歩きで周りの景色を楽しむ余裕がなかった。植物園を出る時「また来週来てください」と植物園の方がおっしゃったが、



1週間後ならもっと紅葉が美しいだろうなと思った。

帰りはトゥエンティクロス、市ヶ原、布引の滝を通って新神戸駅までのコースを通った。

帰りも特に難しい所はなくなだらかなコースだったのでそんなに疲れは感じなかった。

全体的に今回の山行は急な登り下りや岩のところもなくやさしいコースだったのかなと思った。メインと思われる森林植物園の紅葉が時期的に早くてあまり見られなかったのが少し残念だった。

リーダーさん、ご一緒した皆様、ありがとうございました。



かなしやま
■**金梨山 金香瀬山(朝来市)**
(雲海に浮かぶ竹田城址眺めに金梨山に)

- 山 行 日 : 11月5日(土)
- 参 加 者 : L佐々木 SL尾越 香川 狩集 木下 木村 笹木 中村

- 行 動 記 録 : 鹿島神社大鳥居 5:00 発～竹田城址立雲峡 P (6:15 着) 6:30 発～金梨山登山口 (6:40 着) 6:50 発～金梨山大権現 (8:00 着) 8:05 発～金梨山 (8:15 着) 8:30 発～竹田城址立雲峡 P (10:20 着) 10:30 発～生野銀山 P (11:00 着) 11:40 発～金香瀬山登山口 (12:00 着) 12:05 発～金香瀬山 (13:10 着) 13:20 発～生野銀山 P (14:55 着) 15:05 発～黒川温泉 (15:30 着) 16:15 発

かなしやま かながせやま
◆◆**金梨山と金香瀬山山行を振り返って**

笹木

高御位山遊会に入会して初めての山行。下山し終盤に立ち寄った神社で「えっ？ 私が感想文ですか？」「山行計画書に書いてあったでしょ」「計画書？ もらっていませんけど・・・」地図などのファイルは全て印刷して準備したつもりだったけど、そういえば計画書は見えない。後で調べたらどうやらエクセルのシートを見落としたようだ。下山時にわかってもなあ～(汗)記憶が曖昧だけど許してください。

朝来市金梨山は竹田城址の向かい側、撮影スポットで有名な立雲峡の北側にある。この季節、雲海に浮かぶ竹田城を期待して早朝5時に鹿島神社を出発した。夜明け前、播但道



から見える朝来市は霧に包まれていて期待が膨らんだ。

立雲峡につくとすでにパーキングは満車状態で多くの人が立雲峡に向かっていた。私達は少し離れた登山口から登る。

雑木林に入り道らしきところを探しながらリーダーの後をついて登る。山の中腹あたりで少し見晴らしのきく所があり、流れゆく雲に見え隠れする城址を見て感激。

さらに30分登って行くとそそり立つ岩場に道を阻まれた。どこから登って行くのかわからない。見上げるとすでに登っている人があり、助言をもらって岩の上にとどり着いた。

そこは金梨山大権現、勇壮な洞窟に祠が祭ってあった。ここはまた、先に登っていた人の撮影スポットでもあるらしく三脚を構えていて、「ここまではよく登って来るがここで

人に会ったのは初めて」と、言われる。それ程誰も登らない山らしい。そこから山頂への道はさらに未開の地で右往左往。読図を頼りにリーダーに付いて行き、何とか山頂三角点に触れることができた。見晴らしは悪く、少し出っ張った岩に登ると木の間からすっかり雲が無くなり城址がどうにか見えた。下山も新たな道を辿ることになり、地図を頼りに谷間をひたすら下る。人の声や車の音が聞こえるとホッとした。

お昼は生野銀山まで移動し名物のハヤシライスをいただく。早朝出発では弁当を用意しなくていいのが何より嬉しい。ゆっくり食事して11時半、店を出ると、おじさんに「今から山に登るんか、」とちょっと不思議そうに声をかけられた。

大きな廃坑をあちこちに見ながら登山口に向かう。登山口には立派な標識があり、金梨山よりはましだろうと思えたが30分も進むと、あれ？あれ？またもや行く道がない。仕方なく来た道を引き返し、もう一度標識を確認すると、矢印の方向はもっと急峻な斜面を指していた。「えーっ！こんなとこ登るの!？」少し上に木に巻いたリボンと標識らしきものが見える、間違いない。颯爽と立ち並ぶ杉木立の急な斜面をアキレス腱を伸ばしながら黙々と登る。枝打ちし地面に落とされた枝と杉の枯れ葉が降り積もって道を塞いでいる。歩を運ぶ度に足に絡まり、ひっかかり、転びそうになることしばしば。登って、登って、登って、やっと頂上についたが周りの景色は変わらず立ち並ぶ杉しか見えなかった。

下山も道なき道、踏み外すと谷底に転がり落ちそうな斜面もあり気を抜けなかった。それでもリーダーの的確な判断で迷うことなく

下山できホッとした。ストレッチをしていると登る前に声をかけてくれたおじさん達が「山に登った人は帰ってきたか？」と話している声が聞こえた。「帰って来ましたよー」と返事すると、「よう登ったなー(あんなとこ)」と言われた。そのあと立ち寄った黒川温泉の湯につかりながら「ホントよく登ったなあ〜」としみじみ。

入会后初めての山行は私の中で、金梨山は道無し山、金香瀬山あしかせは足枷山とインプットされました。行き帰り運転して下さったリーダー佐々木さん、木下さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。

